



(有)静岡健康企画	ことぶき薬局	TEL 0559(77)6024	FAX 0559(77)0890
	たまち薬局	054(251)1678	054(251)1685
	ひまわり薬局	053(463)4312	053(460)4612

2002年医療改悪

医療保険

命が！危ない

サラリーマン 3割負担 高齢者 来年から大幅負担増へ

『構造改革』の名のもとに来年から、医療保険制度の大改悪をしようとしています。今日の医療保険財政の危機の主要な原因は国家負担を削減した事にあります。

命を削るこの痛み、あなたはガマンできますか？

70～74歳の窓口負担2～3倍以上に

サラリーマン本人2～3割負担に

長期入院で保険から外される例も

長期入院を対象とした「療養病床」に入院すると、6ヶ月を超えている場合には保険で受けられるサービスが限定され、ベッド料、看護料、食事療養費などが全額自己負担になります。

差額ベッドや保険の効かない医療が増える。

これまでは、保険診療で医療を受けることが基本となっていました。が、「改革」案では、保険が使える範囲を小さくして、それ以上は全額自費の「自由診療」にしようとしています。現在でも差額ベッドや高度先進医療、歯科の一部だけ例外として認められていますが、これを全面的に医療の全ての分野に広げるもので、お金が無ければ十分な治療が受けられない制度になってしまいます。「低所得者は十分な医療を受けるな」とも言うのでしょうか。

医療の企業参入で命や病気も金儲けの道具に

医療と医療制度の目的は健康増進と命を守る事で、金儲けが目的ではありません。

わが国の医療も教育や福祉と同じく公共の財産です。ところが「改革」案では、営利企業の参入を解禁しようとしています。利益を第一優先にするならば安心・安全の医療や医療の公共性が危機にさらされています。全ての国民に公平で平等な医療を提供し安心できる社会を作ることが必要で、差別無く平等に医療を受けられる制度を壊してはなりません。

**無駄な公共事業を削り、医療への国庫負担を元に戻せば、医療保険の財政危機は解決できます。社会保障を充実させ、国民の将来不安を解消する事は、日本経済の再建にも不可欠です。**

薬局の窓口では、この医療改悪中止の請願書署名を行っています。21世紀の日本の医療を『いつでも・どこでも・誰もが受けられる安全・安心の医療』として、守り改善させていくために、皆様とご一緒に力を合わせていきましょう。

## 薬害エイズってな～に？

薬害エイズという言葉、一度は耳にした事があると思います。

現在使用されている血液製剤は、加熱処理されたものや、遺伝子組み替え型製剤などが治療に使われていますが、以前は加熱処理のされていない製剤を使用していました。

それが、薬害エイズの原因になった「非加熱濃縮製剤」です。

血液製剤を加熱処理する方法が海外で開発され、国外では加熱製剤に切り替わりましたが、日本ではなかなか承認されず、後手へと回ってしまい、より多くの患者さんが HIV に感染したのです。その上、患者さんによっては、加熱製剤が承認された後も非加熱製剤を使用され、それが原因で HIV に感染した人もいました。

そして、1989年5月に大阪、同年10月に東京で国(厚生省)と製薬会社5社を被告として、訴訟を起こしました。

その後、平成8年3月に和解が成立しました。しかしながら、和解で全てが解決した訳ではありません。そして裁判は今も続いています。

先日、東京HIV訴訟公判で、松村明仁被告に対する業務上過失致死についての判決が出ました。量刑については求刑3年のところ、禁固1年執行猶予2年。執行猶予がついたことで極めて刑が甘いです。しかも松村被告の上告も決定しています。裁判所が危険性を認識できたとする時期が遅すぎます。感染の被害を軽く考えすぎです。非加熱濃縮血液製剤の危険性について、厚生省は、もっと早くに知っていたのであり、'83年にすでに血友病患者がエイズを発病させて、亡くなっています。さらに、'84年12月には、松村氏に対して血友病患者の多くがエイズ原因ウイルスに感染していることが報告されています。

狂牛病問題にしても、怖いのは病気自身ではなく、政府の対応です。イギリスで狂牛病の発生が報告された時点で危険性を認識していない事がもはや罪なのではないでしょうか？

今後の薬害エイズ控訴審で、しっかり真相解明され、刑事責任が追及されることを期待します。

全国の医療機関から発行された処方箋の保険調剤

をいたします。

お薬の事なら何でもご相談ください。

